特別講演１は、日本看護協会会長である坂本すが学会副理事長より「医療職が働き続けられる未来に向けて」をテーマにご講演いただき、「医療・介護ニーズが一挙に増大する2025年に向けて、専門性の高い医療従事者のチームが最高のパフォーマンスで働けるよう、組織が必要な方策を講じていかねばならない。」とお話しされました。

特別講演２は、東北大学大学院医学研究科教授の賀来満夫先生より「震災時における感染症トータルマネジメント－チーム医療の重要性とその意義－」をテーマにご講演いただき、東日本大震災発生後の感染管理の取り組みが紹介され、「ソーシャルチームを支えるのは人、チーム医療はヒューマンネットワークである。」とお話しされました。

特別講演３は厚生労働省政策統括官（社会保障担当）の唐澤 剛先生より「地域包括ケアシステム－地域に根ざした包括的で循環的な医療・介護サービス提供体制をつくる－」をテーマにご講演いただき「各地域の特性にあった方式で作り出すことが必要として、地域に根ざした包括的で循環的な医療・介護サービス提供体制をめざし、病院は地域包括ケアの重要な一員である。」として地域包括ケアの重要性についてお話しいただきました。

特別講演４も市民公開講座として、順天堂大学教授樋野興夫先生による「新渡戸稲造がん哲学の到来」と題して講演し、「がん哲学外来とは生きることの根源的な意味を考えようとする患者と、がんの発生と成長に哲学的な意味を見出そうとする人の対話の場であり、支えられなくても寄り添いあえる。会話は成立しなくても対話はできる。」と指摘されました。

また、教育講演１は日本医科大学特任教授の長谷川 敏彦先生より「日本の医療安全の過去と未来「遅すぎた革命」患者安全革命、そして「未だ来ぬ革命」を展望する」をテーマに講演していただきました。教育講演２は聖隷浜松病院副院長の清水貴子先生より「聖隷浜松病院における多職種連携」について講演していただきました。教育講演３は、慶応義塾大学大学院教授の田中 滋先生より「社会保障制度改革と医療」をテーマに講演していただきました。

教育セミナーや12テーマのシンポジウムを通じ、クリティカルパスをはじめ、医療安全、医療の質、地域医療連携、コンフリクトマネジメント、病院経営、DPCなど多岐にわたる領域で活発な議論が展開されました。中でも地域医療連携やチーム医療といった多職種による連携に関するものが多く見受けられ、医療現場におけるチーム医療の重要性が増している状況が垣間見られるものでありました。

ポスター展示

１日目の夜には、ホテルメトロポリタン盛岡NEWWINGで懇親会を開催いたしました。参加者は予想を超える500名程度に達し、多くのご参加をいただきました。開会セレモニーとして当院の職員による盛岡夏祭り「さんさ踊り」の披露に始まり、地元食材を使った郷土料理や名物料理、屋台料理とともに、飲み物も地酒、地ビールを中心に「地産地消」にこだわりを持って皆様にお楽しみいただき、アトラクションとして「わんこそば大会」を催し、会場内が大いに盛り上がりました。

最後になりましたが、企画から運営に至るまで、学会役員並びに会員の皆様にご指導、ご協力をいただきましたことに心より感謝いたしますとともに、全国各地からお越しいただいた参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。

また、学術総会運営に緑のポロシャツを着てスタッフとして尽力していただいた当院職員並びに県内各病院職員の皆様にも感謝申し上げます。

今後の日本医療マネジメント学会の益々のご発展と皆様のご活躍を祈念いたしまして、第15回日本医療マネジメント学会学術総会の開催報告とさせていただきます。

来年は岡山で皆様方とお会いいたしましょう。ありがとうございました。

開催報告
講習会

2013年度第１回医師事務作業補助者講習会に参加して

市立長浜病院診療情報支援室　堀江智美

会場風景

私は、診療情報管理業務に携わり10年以上が経ちます。当科の名称も『図書・病歴室』から『病歴図書室』、『診療情報管理室』を経て現在の『診療情報支援室』となりました。

診療情報支援室と改名され２年目です。支援室となった背景には医師事務作業補助業務があります。昨年までスタッフ４名だったところ、一気に11名に増員。診療情報管理業務と医師事務作業補助業務を『診療情報支援室』でやりなさい、と。さぁて、私自身が戸惑ってしまいました。病院側として構想はあるようですが、スタッフの教育から始めなければなりませんし、どこまで関われるのかが、さっぱりわかりませんでした。

勉強しよう！と、この講習会に参加させていただきました。